

財政の健全化と住専について 一五一一八字

今議員御指摘のとおり、平成八年度予算におきまして約二十一兆円の国債を発行することを予定しているわけでございまして、八年度末の国債残高は約二百四十一兆円に増加する見込みであるわけでございます。

今御質問の各国との比較ということでございますと、この結果、指標といたしましてフローとストックと両方あるわけでございまして、フローの財政指標でございまして公債依存度というもので見ますと、八年度は二八・〇%でございまして。これを各国見てみますと、アメリカが一〇・三、イギリスが一七・九、フランスが一七・八と、非常に我が国は高い水準になっております。

また、同じフローの財政指標で国債の利払い費の一般会計歳出総額に占めます割合でございまして。これは一五・六%ということでございます。これもやはりアメリカの一五・五、イギリスの六・九、フランスの一五・六に比べまして高い水準でございまして。

さらには、ストックの方の指標でございまして、国の長期政府債務残高の対GDP比で比べまして、我が国の場合六四・六%となるわけでございます。同様の指標を先進国見ますと、アメリカが六〇・二、イギリスが四五・四、フランスが二二・五ということでお聞きいただいておりますように、フロー、ストックいずれの指標を見ましても、我が国の財政は主要先進国の中で最も悪

い水準ということになっていくわけでございます。

現在、諸外国では財政健全化に積極的に取り組んでいるところでございます。我が国としても、今後一層強力に財政改革に取り組まなければならぬということでございます。

中田委員 今おっしゃっていただいたとおり、フロー、ストックともに指標は諸外国に比べて極めて悪いということでもあります。

そうした中で、いわゆる住専の処理策というのが出てきているわけですね。私もちょっとここを関連してお聞きをしたいわけでありまして、住専の今回の処理策、一次分六千八百五十億円、これはばくつとお聞きをしますが、これに充てられる歳入というのは、ではどう考えるわけですか。

伏屋政府参考人 お答え申し上げます。

八年度の予算の歳出に係ります財源につきましては、これは全体として、税収、税外収入、公債金によって賄われておるわけでございます。

今回の住専処理のための支出六千八百五十億円が、これらの財源のうちいずれかのみによって賄われているという関係になっているわけではないので、その点を御理解いただきたいと思っております。

中田委員 ということは、今回の住専処理はある意味では赤字国債も入ったの処理策ですね。一八・八%というのが平成八年度の赤字国債の依存度ですから、住専の支出においても一八・八は赤字国債からということに考えていいわけでありませぬ。

住専の今回の問題、我が党の議員がいろいろところで指摘をし

ているように、非常識がさんざんいっぱいあるわけでありませう。一般の国民の人からいえば、これを感情論も含めて、なぜバブルのツケを税金で払わなければいけないのか、こつこつ非常識があります。そして、何よりも積算の根拠、これがどうもわからない、この非常識。それから、これから先、この住専処理策について、バブルのツケなり民間企業のツケなりを税金でというところは、大蔵大臣なり皆さんがどんなに御説明をされても、それはその時期にいる我々はいいいのですが、赤字国債一八・八を含む次の世代の子供たちまで含めてバブルのツケを全員負うということに対しては、これは非常識のきわみじゃないかなというふうに私は思っています。

ここに關してはどのようにお考えなのか。もしよろしければ、大蔵大臣お願いしたいと思います。

久保国務大臣 これらの六千八百五十億円がどの財源によるかというようなことは、歳入全体と歳出全体との関係でありますから特定することは難しいと思いますけれども、結果的には公債に依存する分が大きくなるということは御指摘のとおりだと思います。そのことが後世の負担になっていくということは大変これは厳しいことだと思います。

しかし、今、金融政策上とらねばならぬ道であれば、そのことを放置することによって起こる後世への影響というものとの比較において、私どもは選択せざるを得なかったのだと考えております。

中田委員 別に決して放置をしろと言っているわけじゃないわけでありませう。いろいろほかに解決方法があるということいろいろ

な機会で我々、我が党の議員も主張をしているわけでありませう。

親子がいて、親と子が共同で二世帯住宅をつくった。そのローンを子供が一生懸命返していくというのはこれは話は重々わかるわけでありませう。それはいわば建設国債の方ですね、考え方といたしましては、赤字国債の方はどうかといえ、これはざつと分けてみれば、決していいだ悪いだなんというふうに簡単に分けられる問題じゃありません。赤字国債もすべてがすべて悪いわけじゃありません。阪神大震災のように緊急な事態が起こって、その際の財政の支出、復興、復旧をやらなければいけない、こういう場合に赤字国債を出していく、これはあり得る選択だと思っております。しかし、今回の場合は、例えて言うならば、賭博に手を出してさんざん借金を積んで、そしてそれを次の世代に残してしまう赤字国債が約二〇％今回の住専処理策の中に含まれるというような話なわけでありませう。今まで久保大蔵大臣は社会党でやってこられて、私はこれは本当に社会党の皆さんが今野党だったらこんな処理策を許すのかなと思っております。与党だから今は何だかんだと大蔵省の論理の中に入ってしまったとしても、社会党でこれまで消費税の問題もあれだけとやかよく言ってきた、今回のこの住専の処理策を本当に皆さんもだと思つて議論しているのかなという気がしてならないわけでありませうが、大蔵大臣、いかがですか。

久保国務大臣 今のようなおっしゃり方は私としては大変気に入らないことでありませう。

この住専問題の処理は、もう今は社会民主党でありませうが、社会

党の委員長が内閣首班でありますときに閣議決定され、それを今橋本内閣が引き継いで、橋本内閣の閣議の意思としているのであります。

そういう意味で、私どもは、このことが今私どもが選ぶべき最善の方法である。ただ、このような事態に至るその経緯に関して私どもは決して甘くみずからの責任を軽く考えるというようなことをしてはいけない、こう思っております。

今中田さんが、そういう道を選ばなくても